

令和7年度 第3回 自転車の活用推進に向けた有識者会議

前回の振り返り





分類	主なご意見
次期自転車活用推進計画のビジョンに対する意見	① 視覚障害者など、一人では自転車に乗れない人の目線では、 <u>「誰にとっても…活用できる」という表現</u> には疑問が残る。
	② 走行空間について言及する際は、 <u>「歩道上の歩行者を保護するため」</u> という主旨の説明が入ると、車道走行に拒絶を示す層に向け、理解をいただきやすくなるのではないか。
	③ 「安全」・「快適」だけではなく <u>「楽しく」乗れる自転車の視点</u> も重要。
	④ 特に地方都市では通勤で自転車を使ってもらいたいため、 <u>「通勤」のワード</u> もあったほうが良い。
	⑤ ビジョンの掲載位置は、 <u>計画の冒頭</u> が良いのではないか。自治体へのインパクトが重要。
次期自転車活用推進計画の施策・措置に対する意見	⑥ 各措置の実効性を担保することが重要となるため、誰が担当するのかを計画上はっきりさせることも考えられる。
	⑦ 自転車ネットワーク計画の策定率が伸び悩む理由を分析したうえで、取組を考えていくべきでは。
	⑧ 自転車とバスは親和性があるものの、自転車を敬遠しているバス会社もあり、現場でどのように連携を強化できるかは重要な課題。
	⑨ <u>ゾーン30プラス等</u> について、一般的な生活道路対策の記載にとどまっており、 <u>自転車を組み込んだ記載</u> にできないか。
	⑩ <u>中高生の通学中の事故</u> に関しては、交通安全教育だけではなく、 <u>通学路の安全性とモビリティの3つの視点を考慮</u> した記載にできないか。
	⑪ 多様な自転車や多様なモビリティについて、今後どのように取り組むのか。
	⑫ 本計画において、自転車だけではなく、 <u>特定小型原動機付自転車</u> などについても、低速モビリティとしてまとめて考えた方がよいのではないか。
	⑬ <u>「利用環境」と「移動環境」という言葉</u> については、ミスリードを招かないように整理が必要。
	⑭ 強化する措置が <u>「～検討する」</u> で終わっているのは <u>トーンダウン</u> とわれてしまう。



分類	主なご意見
次期自転車活用 推進計画の指標 に対する意見	⑮「健康寿命の延伸」、「運動習慣者の割合」について、 <u>自転車との関係が不明瞭</u> ではないか。
	⑯「運動習慣者の割合」について、「 <u>1回30分以上の運動を週2回以上実施</u> 」とあるが、「 <u>30分以上の自転車利用</u> 」となると一般的にハードルが高く、指標としてふさわしいか疑問が残る。継続時間が短くとも、運動時間を積み立てることで身体に効果があるとも言われており、移動時間を運動時間にできる自転車のメリットと逆行しているのではないか。
	⑰ 調査の設問に自転車の項目を追加し、経年的な変化を年代別等で分析することも考えられる。
	⑱「スポーツとしてのサイクリング行動者率」について、 <u>サイクリングでのスポーツという表現は一般的に「レース」を連想</u> してしまうのでは。スポーツということを強調し過ぎず、自転車を利用して生活の活動強度を上げていくことの方が国民の感覚に近いのではないか。
	⑲「自転車分担率」について、 <u>公共交通のある都市部と、自動車中心の地方部では状況が異なる</u> ことに留意が必要。
	⑳ サイクル&バスライドの促進は、分担率に影響しないのか。
	㉑ 指標が大人にフォーカスしている印象。運動習慣は子供の頃からの積み重ねが重要なため、 <u>子供や10～20代の視点</u> も重要ではないか。
その他	㉒「自転車損害賠償責任保険等の加入率」について、現行計画の目標値よりも下方修正されている。
	㉓「 <u>自転車ネットワーク計画を策定した市区町村数</u> 」と「 <u>自転車通行空間の整備延長</u> 」について、 <u>相互の関係性</u> も考慮すべき。
その他	㉔ 骨子案について、 <u>様々な意見を伺う場</u> を設定しても良いのではないか。